

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2017年（平成29年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 高度長期課題研究「分子標的治療薬の血中至適濃度の確立」

- ・大学院生を対象として、が白血病治療に用いられている分子標的治療薬の至適血中濃度を明らかにするための多施設共同研究（現在6施設）を実施した。
- ・体内動態の個体差が大きな薬剤はその要因解明と解決策について検討し、体内動態個体差の要因解明の成果の一部を国際学会（2017年9月、京都）で発表した。

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）（*）

- ・学部生を対象として、附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間各診療科で実施した。

○ 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム（*）

- ・2012～2016年に、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」として実施した事業を2019年度も継続して実施した。
- ・学部生を対象として、アドバンスト教育を千葉県内3薬科大学3大学がそれぞれ特徴的に有する教育プログラムと融合した教育を行った。

<富山大学>

○ 「薬学経済」（*）

- ・学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名

○ 業界説明会（*）

・学部生、大学院生を対象として、薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 約100名

○ 製薬企業・病院にけるインターンシップ (*)

・大学院生を対象として、県内の製薬企業または病院において博士課程修了後の自立的なキャリア形成に有用なOJT研修を実施した。

○ 「国際医薬学特論」 (*)

・大学院生を対象として、インターンシップに行く前に薬学全般について広く知識を身につけるために、全研究室の教員が専門分野について英語で講義を実施した。

○ 医薬品製剤開発実習・薬効動態学実習 (*)

・大学院生を対象として、インターンシップに行く前に広く薬学関連の技能を身につけるために、それぞれの研究室が専門としている技術について1週間程度の実習を行った。

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習 (IPE教育)

・学部生対象を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

○ 地域防災演習

・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を実施した。

○ 大学院特別講義

・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 薬学講座

・全薬学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、年2回、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演を開講した。

○ 月例セミナー

・学部生及び大学院生を対象として、年9回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<名古屋市立大学>

○ 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育手法の開発 (*)

・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、学部生を対象とする臨床

準備教育を見直し、より効果的な薬剤師の実践臨床能力開発の研修を試みた。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・ 1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
- ◇ 参加人数：薬学部40名、医学部114名
- ・ 4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
- ◇ 参加人数：薬学部34名、医学部109名
- ・ 1年次生を対象として、夏季休暇中に医学部の学生と合同で1週間関連病院にて実習を行った。実習終了後に事後ワークショップを行い、チーム医療の重要性を学習した。
- ・ 4年次生を対象として、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

<岡山大学>

○ 全国学生ワークショップ (*)

- ・ 全国学生ワークショップに学部代表学生1名が参加し、「医療そして社会への貢献～私たちの未来を語ろう～」において社会が薬剤師に求めている役割について全国の薬学部・薬科大学学生が参加して2日間にわたる議論を行った。

○ 学外自主学修合宿研修【本事業の2017年度学生自主研修プログラムとして採択】

- ・ 学部3年生を対象として、創薬研究を主導する人材のキャリア形成のために、研究機関及び製薬企業の見学と、本学薬学系教員による学生との合宿討論を行った。

<徳島大学>

○ 合同ワークショップ (*)

- ・ 薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「医療における国際貢献」というテーマで合同ワークショップを実施した。

○ 薬学部、医学部、歯学部連携のPBLチュートリアル教育プログラム (*)

- ・ 学部生を対象として、年2回、3学部合同で、チーム医療の実践に必要な能力・資質の修得を目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアル教育を実施した。

○ 症例解析を中心とした問題立脚型チュートリアル教育プログラム (*)

- ・ 学部6年生を対象として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実

習での知識・経験を統合して、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討することで、基本的な臨床思考プロセスを修得することを目的として、問題立脚型チュートリアル教育を実施した。

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために、薬害被害者7名を招聘し、一泊二日での合宿型勉強会を開催した。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムを構築し、実施した。

<http://www.pharm.tohoku.ac.jp/~gankagak/super-generalist/index.html>

<静岡県立大学>

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

- ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<金沢大学>

○ 金沢大学薬学シンポジウム（*）

- ・研究者養成の道筋を堅持すべく、教員の教育・研究活動を活性化するため度有機・天然物系、生物系、代謝・動態系、物理・分析・衛生系の4研究分野のシンポジウムを各々毎年開催し、医薬保健研究域薬学系の研究レベルの更なる向上を目指す。
- ・初年度シンポジウムは「金沢大学薬学シンポジウム2009」と銘打って開催した。

○ 新たな研究領域を開拓できる次世代薬学研究者の養成（*）

- ・本学の部局研究力強化型の研究プロジェクトの「先魁プロジェクト：研究領域間融合と研究教育の融合を目指した拠点形成による金沢薬学ブランドの創出」や「新学術創成研究機構ユニット革新的バイオコア・創薬分子プローブユニット」のプロジェクトを発展展開した。
- ・複数研究室での研究活動を通して変化する学問的な要請に対応し問題に果敢に挑戦でき、研究領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する人材の育成を図った。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座 **【連携】**
(*)

- ・静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
- ・全9回のうち、研修4回は静岡県立大学とTV会議システムを利用した講義とし、5回は本学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。

◇ 2017年度参加者：薬剤師41名、学部学生31名（延べ）

<広島大学>

○ キャリアセミナー

- ・薬学出身者の多様な進路を紹介するため、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を3日間開催した。

<九州大学>

○ シンポジウム「大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考える」 **【連携】**

- ・大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考えるために、大学教員と学生、病院・薬局の薬剤師との活発な意見交換を目的として、九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催した。
- ・本シンポジウムを通して、リバース・トランスレーショナル・リサーチを起点にスタートした研究をトランスレーショナル・リサーチにつなげるなど、大学院4年制博士課程における薬学研究が目指すべき方向性を改めて認識する機会となった。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修 **(*)**

- ・メディポリス国際陽子線治療センターの見学、所長及び関連研究者の講演を実施した。

○ 育薬フロンティアセミナー **(*)**

- ・主に専門薬剤師とその職能についてのセミナー及び育薬（主に薬物適正使用）に関するセミナーを継続的に開催している（これまでに50回）。

◇ 参加者：学生、薬剤師、教員など延べ1,661名

○ 抄読会 **(*)**

- ・2006年4月より、毎週火曜日午後7時半から模擬薬局で英語文献を読む抄読会を開催している。
- ・最新の臨床での薬物療法に関する英語文献を読み、その後討論することによって最新の情報を増やし、文献の見方、批判力を高めることを目的とするもので、参加者

に制限はない（開局薬剤師、病院薬剤師、薬学研究者、学部生など）